

農業



令和8年3月号

会誌 No. 1741

目次

巻頭言

水田の畑地化を考える……………別所 智博 3

論壇

品種開発のつるはしとシャベル……………藤本 潔 4

農業懇話会

都市と地方をかきまぜる……………高橋 博之 6

農業・農村担い手問題研究会

「第9回農業・農村担い手問題研究会」の開催について
「日本の農業で、世界を驚かす」……………内藤 祥平 24

農事功績者座談会

定年退職後に法人設立，耕作放棄地の集積とカンショの
流通・加工を軸に6次産業化を展開……………重富 保・重富美穂子 38
現地指導者のコメント……………竹田 博文 47
意見交換……………48

食のエッセイ：農家の気持ち

マイスターという責任，そして使命……………高野 濟 54

世界の農業は今

欧州諸国における化学肥料依存からの転換：
バイオベース肥料とバイオスティミュラント……………神藤 恵史 55

私の経営と志

愛知県豊田市の農業生産法人で働く……………岡部 宇宙 63
—農業の世界に飛び込み，思ったこと，感じたこと—

統計情報

日本の年平均気温偏差の経年変化（1898～2025年）…………… 65

農政情報

…………… 66

支会インタビュー

大日本農会山形支会の紹介…………… 67

大日本農会だより…………… 68

編集部から…………… 68

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭事

なえしろ ださい
苗代田祭
(宮崎県 高原町)

狭野神社の「苗代田祭」は、五穀豊穰と子孫繁栄を祈願し、古くから受け継がれてきた伝統行事です。

毎年2月18日、狭野神社の社殿横の一角を御神田に見立て、神聖な境内にて執り行われます。神職による厳かな神事の後には、牛役と主婦役が登場し、苗代づくりや田搔きの様子を再現します。その際、この地方の方言を用いながら、その年その時々々の世相や身近な話題を織り交ぜた軽妙な会話が交わされ、笑いを誘う動作で会場を和ませます。牛を「ベブ」、主婦を「ハホ」と呼ぶ方言に由来し、祭りは別名「ベブがハホ」とも呼ばれています。

厳かさとしみやすさを併せ持つこの祭りは、1999（平成11）年に宮崎県無形民俗文化財に指定され、地域の誇りとして大切に守り伝えられています。神社という特別な空間で行われる本行事は、農耕文化への感謝と人々の暮らしの知恵を伝え、世代を超えて地域の絆を育み続けています。訪れる人々に温かな笑顔と日本の原風景を感じさせる、貴重な民俗行事です。

(写真および文：高原町観光協会)